

■壁耐震補強に伴う既存壁下地材について

1. 和紙仕上げの壁の現状

和紙仕上げの壁は、仕上げ和紙の下地にシナベニヤt2.7が施工されており、さらにその下地にW60×t9@120程度の縦下地が施されていた。シナベニヤと縦下地は、丸釘での固定と新聞紙等を貼付け接着材を併用していた。新聞紙は昭和初期のものであり、過年度の保存修理の工事報告書の記載のとおりであった。

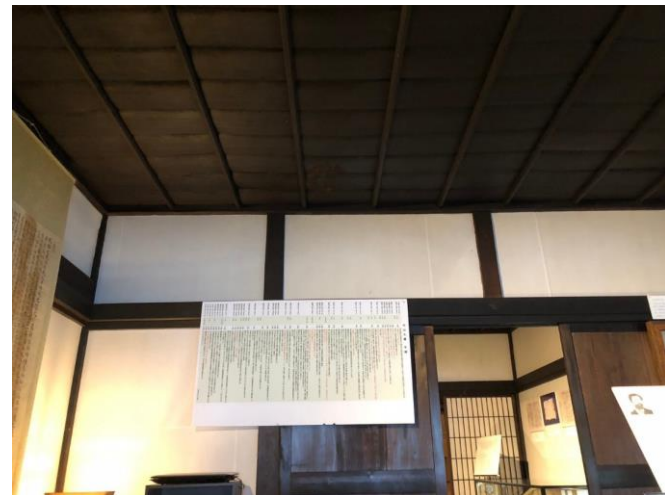


写真1 和紙仕上げの壁（取外し前）

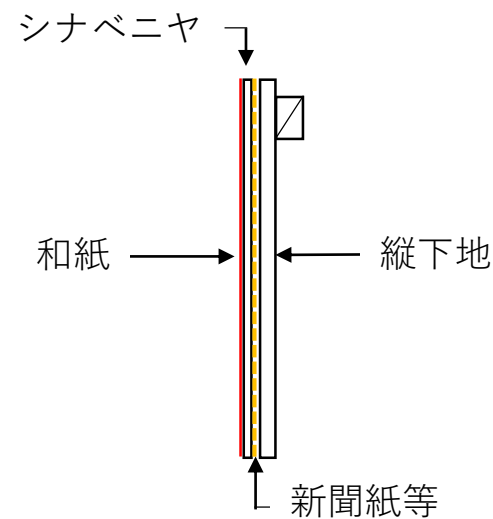


図1 和紙仕上げの壁断面イメージ



写真2 和紙仕上げの壁の縦下地状況



写真3 和紙仕上げの壁の縦下地寸法

2. 和紙仕上げの壁の耐震補強

和紙仕上げの壁は、縦下地W60×t9@120を残したまま、耐震補強を施すと、耐震補強として使用する構造用合板の厚さ9mm分、仕上げが内部側にふけてくるため、天井廻縁の加工、長押の隙間が無くなることなど、仕上げの部分で見栄え等が変わる可能性がある。

3. 主任修理技術者からの指導

指導内容は以下の2点である。

- ・縦板下地を外して構造用合板を張ることで良いと思いますが、下がり壁でオリジナルの壁が残るだけで良しとはせず、出来れば1箇所くらい大きい壁で下地をのこせる箇所はないでしょうか？
- ・下地の上から構造用合板を張って、長押や廻縁に干渉しない箇所はないでしょうか？

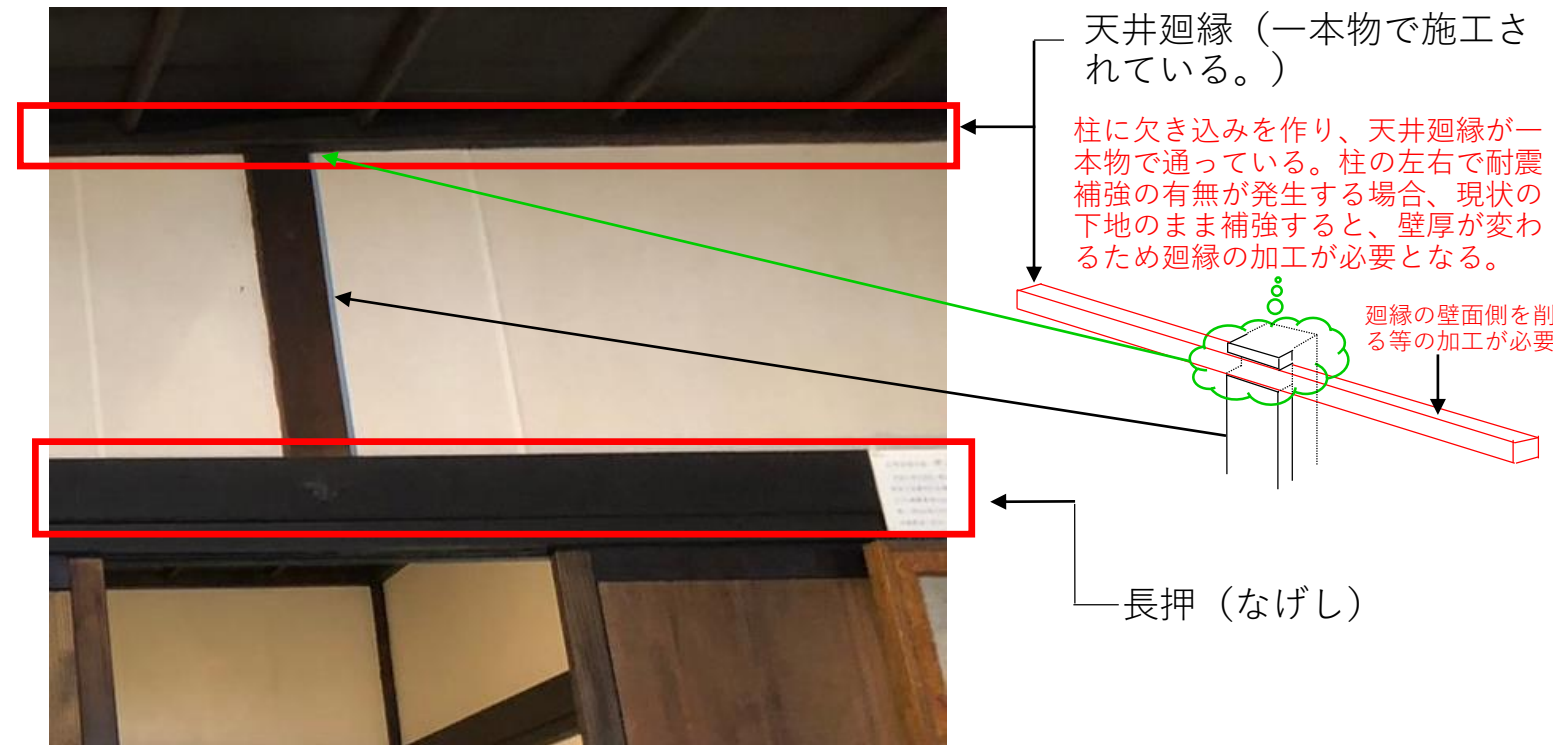


写真4 和紙仕上げの壁及び天井廻りの状況

4. 結論

指導内容及び現場の状況から以下とする。

- ① 縦下地は取り外し、保存および展示として活用を検討をする。
- ② 施工されていた事実を工事報告書に記す。
- ③ 1か所のみ縦下地がある状態で耐震補強する箇所を計画する。

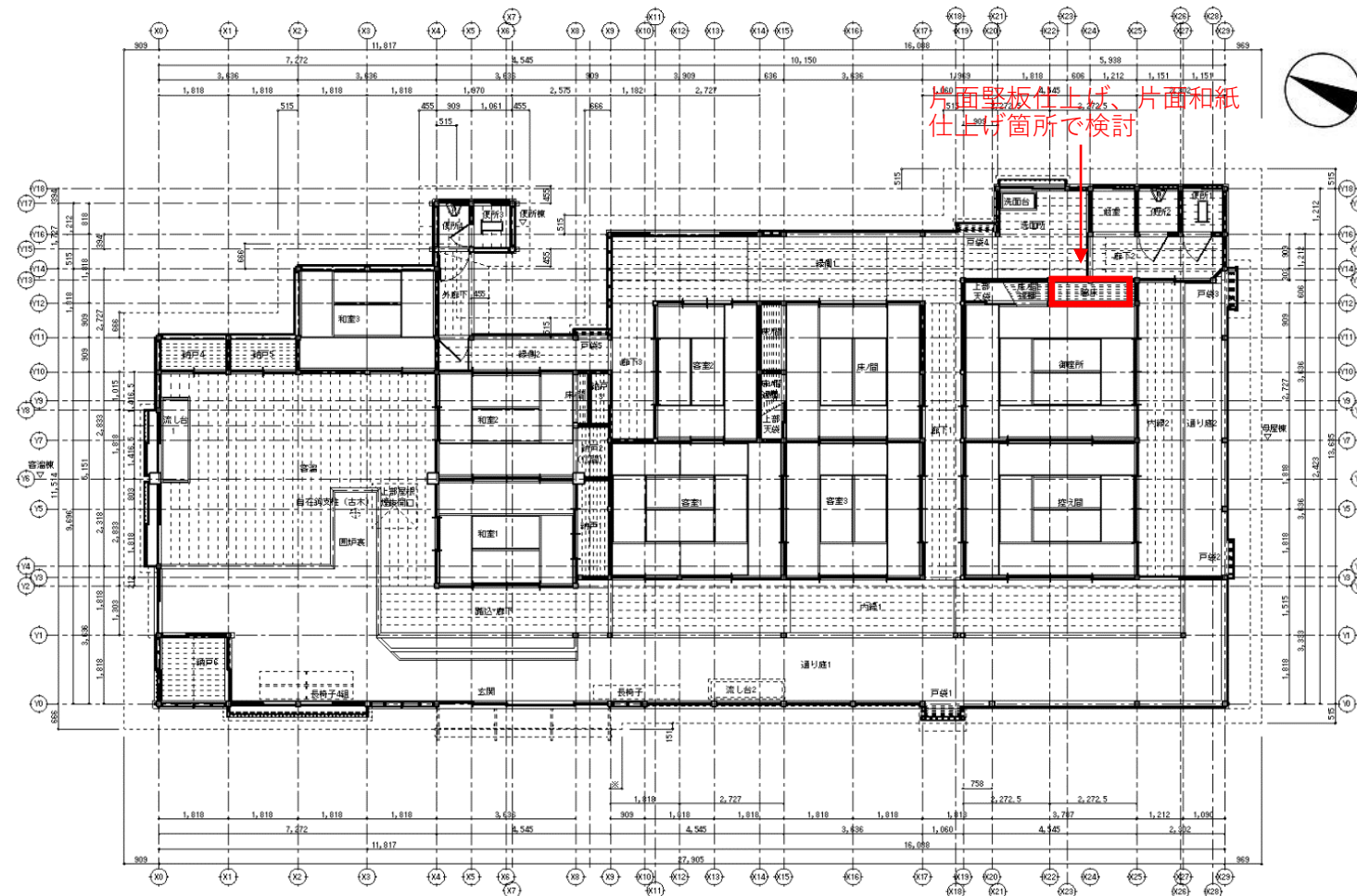


図2 旧島松駅通所平面図